

令和5年度藤井寺市地域部活動あり方検討委員会 会議録

会議の名称	令和5年度 第5回藤井寺市地域部活動あり方検討委員会
開催日時	令和6年2月9日(金) 午後5時30分から午後6時30分まで
開催場所	藤井寺市役所 3階 305会議室
出席者	<p>委員： 藤井寺市スポーツ推進委員：山根 義文 藤井寺市体育協会加盟員：瀧ヶ平 明弘 保護者代表：堂脇 友美 藤井寺市校長会：北村 敦士 藤井寺市教頭会：黒田 伸隆 中学校教員代表：中村 和昭 市民生活部協働人権課：龍見 美行 教育部教育総務課：中村 真也 教育部学校教育課：岸 廣幸 教育部生涯学習課：木村 智紀 教育部スポーツ振興課：八木 淳一</p> <p style="text-align: right;">(順不同・敬称略)</p> <p>事務局： 教育部長：大山 哲也、教育部教育監：寺田 剛、 学校教育課長代理：山川 直人</p>
欠席者	なし
会議の議題	地域移行に向けて
会議の成立	委員9名中、過半数(9名)の出席があり、藤井寺市地域部活動あり方検討委員会規則の規定により成立
傍聴者	1名
会議録の作成方法	要点記録
記録内容の確認方法	会議の議長の確認を得ている
公開・非公開の別	公開

○事務局

皆さん こんにちは。

只今より、令和5年度第5回藤井寺市地域部活動あり方検討委員会を開催いたします。

開会に先立ちまして、委員の皆様方には、次の点についてご了解いただきますようお願いいたします。

本委員会について、原則公開となっており、本日の傍聴者は 1人です。

次に本日の内容につきましては、議事録を作成いたしますため、録音させていただきますので、ご了承願います。

最後に、本日の委員会の内容の中で個人のプライバシーに関する内容が含まれた場合は、守秘義務も含め、適切に対応していただきますようお願いいたします。

以上のことについて、委員の皆様方には、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

会に先立ちまして、前回の会議録についてです。資料1について、委員の皆さまにはすでに送付させていただき、ご意見いただいた点については一部修正しております。お示ししている内容で決定してよろしいでしょうか。

○委員

【異議なし】

○事務局

ありがとうございます。

議事録につきましては、本日提示した資料とともに後日ホームページにアップする予定となっておりますのでご了承ください。

それでは、これより、委員長と副委員長に司会進行していただきます。

委員長、副委員長よろしくお願いいたします。

○山根委員長

それでは、次第2「地域移行に向けて」です。

前回の会議にて、次年度に向けた取り組みについて事務局にて検討を行うとのことでした。新設、拠点校、地域移行についてパターンの提示していただきましたが、事務局より報告よろしくお願いいたします。

○事務局

まずは拠点校実施について報告します。前回の会議を受け、市内3中学校長に拠点校実施に向けての協議を行いました。その後、各校にて教職員へ周知いただき、前回の会議でも挙げた具体的な種目も含め、拠点校実施について検討いただきました。結果としては、拠点校の負担増となる点、そして団体戦などチームとしての出場がまだできる部活がほとんどであり拠点校実施を行うと試合に出られなくなる生徒が出てくるのが想定される点などが挙がり、いまのところすぐに拠点校を実施できる部活動はありませんでしたが、剣道部について、道明寺中学校と第三中学校で合同練習会の実施について学校間で協議を行っております。事務局も協議に参加し、学校の実情に合わせ今後の拠点校化や地域移行も含めて検討していきたいと思いま

す。また、次年度以降に1チームで試合ができない部員状況にあるケースが出てきた部活動について拠点校実施を学校へ提案してまいります。

続いて地域移行についてですが、こちらも次年度すぐに実施できる部活動は調整できませんでしたが、専門的に指導できる顧問の配置ができない部活動に対して、部活動指導員等外部指導者を配置し、教員の負担軽減を図りつつ、将来的に地域移行をめざすことを進めて参りたいと思います。具体的な部活動については学校と現在調整中であり、次回の会議にて報告いたします。

○山根委員長

ただいまの報告について、ご質問やご意見はございますか。

○北村副委員長

剣道部の顧問に話を聞いた。心技館で放課後中学校生が集まることを将来的にめざしたい。専門性が高いので、顧問が転勤すればなくなってしまう可能性もある。拠点校だと、中体連次第だがおそらく1チームしか出られない。今は道中も三中も単独で試合に出られる人数がいるので、拠点校ではない形がいい。合同練習だと顧問の引率等が課題。三中が道中に練習にくる場合の引率はしなくてもいいようにならないか。

○事務局

拠点校ではなく、合同練習となれば引率は基本的に必要となるが、部活動指導員の配置や保護者の了承を得る方法を模索するなど、今後学校間で連携していく必要がある。他市町村の取組みも確認し、今後共有させていただきたい。

○山根委員長

それでは、続いて新設についてです。

報告をお願いします。

○八木委員

スポーツ振興課より報告します。

まず、陸上部についてですが、現在、市内で子どもを対象とした体操教室を開いておられる方がいらっしゃり、ご本人は、学生時代は陸上部出身であること、また数年前まで藤井寺北小学校の校庭を利用して、小学生対象の陸上クラブを運営していたことなどの実績がございます。

こうしたことを踏まえ、今後もし藤井寺市内の中学生のために、陸上部を設立するとしたら、どのような協力を求めさせていただくことが可能かを打診しておりました。

ご本人曰く、「私自身の年齢を考えたら、第一線に立って直接指導することは難しいと思う。しかしながら市が地域部活動として陸上部を設立していく方針が固まり、ある程度運営のシステムがまとまってきたら、私の陸上クラブ時代の教え子などを通じて、地域部活動の指導者となるような人材と一緒に探していく協力は可能である。」という回答が得られました。

次にアルティメット部についてですが、現在スポーツ振興課では、フライングディスクを用いたスポーツ普及事

業に力を入れており、小学校からの要請に応じたドリームプレゼンターの講師として、本課所属の社会人アルティメット選手を派遣し、子どもたちに対し、夢を持つことの大切さや、フライングディスクの魅力を紹介しています。また、市のスポーツ施設を用いたフライングディスク体験事業もこれまで実施してきました。

本課が考える令和6年度の事業実施形態は、令和5年度の事業実施内容を更に骨太化し、単発的な講習会ではなく、ある程度固定されたメンバーが、継続的に活動していけるようないわゆる「アルティメット教室」のようなものを立ち上げ、小学生はもとより、中学生も対象とした教室の立ち上げを企画できればと考えています。

この教室の立ち上げのほか、小学校や中学校の保健体育の教員を対象とした研修会を実施する際の教材の一つとして、フライングディスクを採用していただくことができないかを学校関係者を通じて調査し、子どもたちだけでなく、学校の先生方にも理解を深めていければとも考えています。

今後本市が地域部活動の一種目としてアルティメット部を設立していこうとするのであれば、上記の教室参加対象者は、令和6年度に小学6年生になる児童が望ましいと考えており、仮に令和7年度当初に新設アルティメット部が本市に誕生したとしましたら、この6年生が中学1年生になっていますので、その生徒たちが所属したい部活動を選択する際の1つとして存在できるのではないかと推察しております。

ただし、本課所属職員だけでは地域部活動としてスタートし出したときは、やはり指導者不足であるという課題も残り、引き続き指導者となり得る候補者の確保が必須となります。

○山根委員長

ただいまの報告について、ご質問やご意見はございますか。

○瀧ヶ平委員

新設はぜひ進めてほしいが、どのように進めていくのがいいのか検討が必要だ。

○堂脇委員

子どもが藤中でアルティメット体験をしたと聞いており、非常に楽しかったとの感想だった。次年度に小学生が体験教室の参加すれば、中学校へ入っても引き続き競技したいとなるのではと思うので、前向きに進めてもらいたい。

また、知り合いの子どもが部活動指導員のチラシを見て事務局に連絡したが、年齢が20歳からとのことと断れたのだが、人材難の状況で大学生なら可能でいいのではないか。

○事務局

現在は20歳以上という規定はないので、再度連絡が取れるならお話しさせていただきたい。

○黒田委員

アルティメットは藤井寺市の特色があると思うが、報告にもあったように、指導者の確保は大きな課題だと思う。1人だけでなく、拡大していくことが部活化するための必須だと感じた。

○中村和委員

学校でアンケートを取ったが、否定的にとらえる先生が多かった。奈良では 2026年度から部活動の廃止をすると決めたとの報道があったが、完全に学校外の地域の取組みとして行うことがいいのではないか。部活動という言葉も含め変えていかないといけない。最終的には中学校から部活動がなくなることがゴールだと思う。1回目の会議で共有した通り、教員アンケートの結果では7割の教員が負担に感じているということは忘れてはいけない。

○北村副委員長

小学生から道明寺中学校の男子バスケットボールの新設についての相談があったが、学校の部活動で今後新設していくのは非常に厳しい。拠点校や地域移行を行っていくことが、子どもたちがスポーツや文化活動に親しむ機会を提供していくことになるので、そのことを考えて前向きに取り組みたい。

○岸委員

何年度までにすべて移行するといったゴールを設定するのは難しい。できるところから少しずつスタートしていくことで、全体の移行の形が見えてくるのではないか。

○中村真委員

全国的に様々な自治体が取組みをしていると思うが、他市町村等の状況も参考にしながら、本市で人材確保できるところから進めていく方向でいくのが現実的だと思う。学校の先生の負担軽減だけでなく子どものやりたい種目を広げていく目的もめざしたい。

○龍見委員

市内の生徒が合同で部活を行うには場所の制約が出てくるが、本市は小さい市なので、距離的に比較的集まりやすいことから、体制が取れるところから進めていけばいいと思う。

○山根委員長

事務局から何かありますか。

○事務局

今回具体的な取組みについて報告できなかったことについては申し訳ありません。ただ、できるところからというご意見は本日もありましたとおり、今後も方向性は変えずに進めてまいります。次回の会議にて、令和6年度の取組みについて協議いただく予定です。

○山根委員長

前回の会議にて、今回の会議で方向性を決めるとのことでしたが、学校や団体への調整が引き続き必要であることがわかりました。様々な課題もありますが、現場の先生方のご意見もふまえて、できるところから進めていくという方針は変えずに、今後も、新設や拠点校実施、部活動指導員の配置などに取り組んでいきたいと思います。

事務局は、学校や団体と調整いただき、次回の会議にて、次年度の取組みについて提案ください。

続きまして、次第の3「事務連絡」についてです。

事務局お願いします。

○事務局

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。次回の日程調整をさせていただきます。

3/15(金)午後5:30でどうでしょうか？

それでは、3/15(金)午後5:30で開催いたします。

開催場所が決まりましたら正式なご案内を送付させていただきます。

○山根委員長

これで、本日の案件はすべて終了いたしました。これを持ちまして「令和5年度 第5回 藤井寺市地域部活動あり方検討委員会」を閉会といたします。

ありがとうございました。